

「西日本に孤立して暮らすクマたち」

ツキノワグマは森林生態系の頂点に君臨し、古くから民話に登場するなどなじみ深い動物でもあります。西日本のいくつかの個体群は、孤立分布して個体数が少なかったことから、日本版レッドデータブックで「絶滅のおそれのある地域個体群」とされています。しかし、近年は人家周辺域へ出没することが多くなって、養蜂や果樹園などへの被害が増加しています。このような状況のなかで、各地域では積極的な保護管理に取り組んでいます。本シンポジウムでは、西日本の数十頭規模の個体群や生息数が回復しつつある個体群の今後の保護管理の方向性について考えます。

日にち：2015年12月5日（土）

時間：13：30～17：00

会場：島根県民会館 大会議室

（島根県松江市殿町158 TEL: 0852-22-5506）

入場無料

参加申込不要



プログラム

13：30 挨拶 坪田敏男（日本クマネットワーク代表）

○第1部 13：35～14：25

青井俊樹氏（元日本クマネットワーク代表／岩手大学）の特別記念講演

「クマと人とそして森とーそのお付き合い、昔と今ー」

○第2部 14：35～15：45

「四国のツキノワグマ ー改善しない生息状況、きびしい現状ー」

山田孝樹（認定NPO法人四国自然史科学研究センター）

「東中国地域個体群と近畿北部地域個体群の現状と課題」

中川恒祐（株）野生動物保護管理事務所関西分室）

「西中国地域におけるツキノワグマの保護管理の現在と今後」

澤田誠吾（島根県中山間地域研究センター）



☆パネルディスカッション 15：55～17：00

「四国と東・西中国地域個体群の今後の保護管理の方向性」

コーディネーター 小池伸介（日本クマネットワーク事務局長／東京農工大学）